

第2回名張市地域公共交通会議議事概要

日 時：平成20年1月22日（火） 午後1時～

場 所：市役所 庁議室

出席者：（敬称略）

（1）委員

中村 俊行（三重交通株式会社伊賀営業所所長）

池田 誠克（三重近鉄タクシー株式会社名張営業所所長）

深山 美芳（深山運送有限会社取締役）

田中 真一（社団法人三重県バス協会代表）

山本 隆（名張市区長会代表）

海保 稔（名張市身体障害者互助会会長）

大塚 忍（名張市子育てサークル連絡協議会会長）

神生 紘一（市民公募）

奥野 三男（国土交通省中部運輸局三重運輸支局 首席運輸企画専門官）

森澤 淳（三重交通労働組合伊賀支部 書記長）

北井 秀也（三重県名張警察署交通課長）

笠原 正嗣（皇學館大学社会福祉学部 准教授）

小林 正夫（三重県政策部交通政策室長）

堀永 猛（名張市都市環境部長）

（2）事務局：都市環境部交通対策室3名

会議の公開・非公開： 公開

傍聴人： なし

内 容： ・「名張市地域コミュニティ交通推進方針」について
・廃止代替バスについて

会長 今日は事務局からの報告を中心に運営させていただきたいと思いますのでよろしくお願いたします。それでは事務局のほうからお願いします。

事務局 それでは議題1「名張市地域コミュニティ交通推進方針」についてご説明させていただきます。(資料に基づき推進方針の内容を説明)

会長 市のほうではコミュニティ交通に対し、国津地域の300万円を基準に補助するということですが、ケース3について、これは福祉の部分ということで健康福祉部の方が中心になるとのことですが、この場合は市の300万円の支援は適用されないわけですか。

事務局 はい、ケース1とケース2について、300万円を補助させていただきます。

会長 バスが通っている地域については福祉の視点から考えるということですね。

委員 以前から、福祉バスの利用状況等も踏まえて、それらの活用を検討していこうという方向だったと思うんですが、その辺りはどうなんでしょうか。

事務局 福祉バスを一挙に廃止することはできませんので、コミュニティ交通が立ち上がっていく中で、総合的に見ていろんなところを検討していこうと考えております。

会長 福祉バス等の機能をうまく集約して合理的に使うための移行期として、今、併用のような形になっていると理解してよろしいですね。続きまして、廃止代替バスについてということで、ケース1の具体的な事例が出てきておりますので、進捗状況をご報告いただきたいと思います。

事務局 お手元の資料をご覧ください。(資料に基づき説明)

会長 本年度をもって廃止代替バス路線3路線を廃止ということが決定しておりますので、それに対して地域の中でコミュニティ交通を立ち上げる必要があるということで進められております。錦生地域については4月から実証運行を行うということで進められていると、国津地域では、現在あるバスをうまく具合に運用しながら代替していくんだと、薦原では4月からを目標に協議が進行中であると、いうふうな報告をしていただきました。

委員 錦生地域ですけども、1便当り2~3人しか乗っていないということだったと思うんですけども、23人乗りのバスというのは地域の要望によるものなんでしょうか。

事務局 今、廃止代替バス路線として運行している中で、18年の9月26日から10月の2日までの1週間、乗降調査を行っております。その中では、朝8時25分の若宮橋発、名張駅西口着の便は1便当り8名程度となっており、朝から夕方までの全便平均では2~3名になるものの、便によってはそういった状況となります。また、今までは竜口、上三谷、矢川地区はバスが通っていなかったわけですが、それらの地区もこれから運行することになりますし、地域コミュニティという中での、乗りましょう、一緒に買い物に行きましょう、といった住民自身の取り組みも期待しているところです。そういった中では、あららぎ号並みの10人乗りのワゴン車ではちょっと足りない、それ以上になりますと15人乗り以上になるということでこのような形になっております。

委員 運賃について、現金を徴収せずにチケットをとというのはどういうことなんでしょうか。

事務局 本格運行では道路運送法4条による乗合運送になりますけども、ルートやバス停などが実証運行の段階で変わる可能性もありますので、まずは応用のききやすい貸切バスによる運行とさせていただきます。貸切バスの場合は路線バスのように車内でお金を取るわけにはいきませんので、乗車チケットを地域で発行していただき、本格運行に向けての試験運行を行っていくということです。1年間はそういう形で進めていただくこととなります。

会長 運賃は現在の運賃体系を踏襲されるわけですか。

事務局 運賃につきましては、今までの路線バスの額程度が上限とされているところですが、地域の中でもいろいろと検討し、段階別に100円から500円ぐらいまでの額ということで、若宮橋から名張駅までが480円でございますので、大体同じぐらいの額で考えていこうということで計画をしております。

会長 このチケットというのは乗る区間を事前に決めておくということなんですか。

事務局 いえ、このチケットというのは、回数券みたいなものと考えていただけたらと思います。回数券ですから、400円の区間を乗っていただけたら400円分渡していただくという形です。

委員 1年間の実証運行の結果、今までと同じように乗客が少ない場合は10人乗りにするとか、そのような移行というのはあるんですか。

事務局 現在、取り組みの中では、地域コミュニティの力を生かしてできるだけ乗っていただくように思っていますが、半年経った9月の時点で見直しを行うこととしており、いい場合はそのままいけるわけですけども、そうでない場合はそういった検討をしていくこととなりますし、まるっきり乗らないということであれば、これ以上進めないということもあり得ます。

委員 例えば青少年センターで大きなイベントがあるような場合に、23人乗りでは間に合わないかもわかりませんか。そういう時は、もう1台貸切バスを増やすといったことについて検討するわけですか。

事務局 地域と事業者との契約になるわけですが、地域の中で、大きな催し物がある場合に臨時バスを出していただくといったことも検討していただくということで事業者さんとお話をされています。

会長 国津ですが、今までのバス路線の部分を補うために路線変更をするんでしょうか。

事務局 現在の廃止代替バスはご存知のように青蓮寺湖の沿線ですので、この廃止代替バス路線自体、既存のバス路線と重なる部分がありますので、廃止代替バスのルートを通るに当たってはその辺りを考慮しながら検討を進めているところです。

委員 名張駅までルートを延長する場合は、駅までの間で一般の方も利用できるんですか。国津からストレートに名張駅まで入っていくわけですか。

事務局 地域のバスですので、一般の方が乗られると、逆に地域の方が名張駅から帰ってこれなくなるということもありますし、既存の全てのバス停に止まるというの

ではなく、地域の需要に応じたバス停位置や乗り方を考えています。ただ、まだ検討の段階ですので、具体的などころまでは決まっておられません。次の展開につきましては、具体的になった時点でこの地域公共交通会議でご審議いただきたいと考えております。

委員 名張市のコミュニティ交通は最寄りのバス停・鉄道駅への接続を目的とすることを基本とするとされていますが、それが変わってきたということですか。

事務局 基本的には変わりません。ただ、国津地域の場合、また薦原、錦生地域もそうですけども、今まで名張駅までバスで乗り入れることができたということがございます。ですから、例えば、錦生地域の場合ですと、黒田でナッキー号につなげればいいのか、それとも松崎町で上野名張線等のバスにつなげればいいのかという話になってくるわけですが、その辺りについては、今まで走っていた中でということでご理解をいただきたい部分も出てくるということです。それから国津につきましては、現在、あららぎ号が国津の地域内を細かく回っております。ですから名張駅へ行くにしても時間の制約というものがかなり出てきますので、地域のほうでもその辺を考えて今いろいろと検討されているという状況です。

委員 あららぎ号については、現在は地域内から団地のバスにつなぐという形ですが、これを拡大して名張駅まで行くということになってくると、既存路線の経営を圧迫しかねないということもございますので、その辺については慎重にご議論いただきたいなと思います。それと錦生地区につきましては、廃止代替バス路線が現在走っているところを若干ルートは変えますが、基本的にはその上を走るということですので、それについては問題ないのかなと理解しております。

会長 薦原についてですけども、山添村さんがバスを運行されますよね、これは三重交通さんをお願いするというので今までと同じ形で行くわけですよ。

事務局 路線バスとして走っていただくというふうにお聞きしております、山添村のほうからぜひ名張の沿線の方にも乗っていただきたいと、啓発していただきたいということでお話をいただいているところです。

委員 錦生地域ですけども、運賃がチケット制ということで、市の補助が300万、あと、地域の負担についてはお話を進んでいるのでしょうか。

事務局 地域の負担も必要となってきますので、それについては負担していただくということになっております。

委員 その形式を薦原地域も取る予定ですか。

事務局 薦原地域も同じように交通事業者へ委託したいという意向でございますので、先行している錦生地域を参考にしながら進めていく予定です。

委員 4月からの運行ですと厳しいと思うんですけども、もし間が空いてもその間は山添村さんからのバスが通勤や通学に使えるので支障はないということなんでしょうか。

事務局 実際に名張山添線につきましては、主として奈良県の高校生の方が使われているというのが実態でして、薦原地域のバスとしては4月から運行できればいいんですけど

ども、それを目標にして進めているということです。

会長 地域の負担ということなんですけども、例えば最初に区からいくらか予算をポンと下ろされているというようなことはあるんですか、運賃収入で回収していく形の初期投資のようなものはあるんでしょうか。

事務局 地域の負担につきましては、運行経費全体で考えますと、まずは市の300万、運賃収入、そして地域の負担、この3種類になるわけですね。ですから、できれば市の補助金と運賃収入で全てをまかなえればいいわけなんですけども、今の時点ではそれは非常に難しいという中でですね、ある程度地域の自治会から負担していただくということを考えていただいております。ただ、これがあまりに大きくなりますと、やはりこれは地域として負担ができませんと、来年実証運行を行って、これはもう見込がないということであれば、当然、規模の縮小や廃止も含めた中で考えざるを得ないというところまで地域の方は考えて進めていただいているところでございます。

会長 そういうことを検証するために1年間やるわけですね。

委員 薦原地域の実験のことなんですけども、本年度中にもう1回これに関して公共交通会議を開催していただけるんですか。

事務局 今年度中に関しては予定はないですが、次年度に予定させていただこうと考えております。

委員 実はですね、実証実験といえども、運行に関しては公共交通会議の承認をいただきたいと思うんです。でないと運行の形態によっては手続き上、承認をいただいたという書類をつけていただかなければならない可能性が出てまいりますので。それは錦生地域も同様なんですけども、錦生についてはこの内容でご承認をいただくという手続きを済ませていただきたいと思いますと思うんですが。

会長 わかりました。それでは薦原については実際に運行するとなった場合はその前にもう1回会議を開いてそこで承認をいただくということですね。

委員 もしくは、この場でとりあえず実験をするんだということについてご承認をいただきましてですね、ルートや運賃については持ち回りで事後承認をいただくというようなやり方も決めていただければと思うんですが。

会長 それでは、錦生地域の廃止代替路線についてなんですけども、実証運行についてですね、4月から1年間実施されるということなんですけども、これについて委員の皆様のご承認をいただけますでしょうか。(各委員承認)

会長 ありがとうございます。それでは錦生の1年間の実証運行についてはとりあえず委員の皆様のご承認をいただきました。国津地域については変更点等はとりあえず現時点ではありませんでしたよね。

事務局 国津地域につきましては、あくまでも市町村有償運送であり、路線や運賃の変更につきましては必ず委員会のご承認をいただかなければなりませんので、これにつきましては、地域の考え方がまとも次第、公共交通会議を開催したいと考えております。

会長 薦原地域につきましては、4月から運行という予定でありまして、まだ具体的な日程というのは現在作られている段階ですが、今、国土交通省の方からご提案いただきましたように、実証運行の実施についてはこの委員会で承認していただくと、路線等については事後の持ち回りで決定する、あるいは路線等が決まった段階でもう1回会議を開いていただくということもあると思いますけれども、いかがでしょう、一応、1月に集まっていますので、実証運行の案が出てきた場合は持ち回りで皆さんの意見を聴取しながら決定してはどうかと、その中で、どうしても開かなければならない事態が生じた場合は、私の判断で開かせていただくという形をとらせていただければと思いますけれども。よろしいでしょうか。はい、わかりました。それでは、3地区のうち錦生と薦原については実証運行、薦原については実証運行に向けての努力を進めているという段階ですけれども、ご承認いただけたということで決しておきますのでよろしくお願いします。それでは3番のその他の項についてお願いします。

事務局 議題3のその他の項につきましては、今後また地域公共交通会議で本格運行等に係るご審議をいただくこととなりますので、そのときはまたよろしくお願ひしたいと考えております。議題3についてはそういうことをございます。

会長 あと、これは私の個人的な案なんですけれども、国津、錦生、薦原の3地区が出てきましたよね、この3地区の連携を取るような機関、連絡協議会というようなものがあるのもいいんじゃないかなと思います。そういった横のつながりを持つ必要性、さらにいろんな地域で福祉の方の取り組みということなんですけれども、市内のそういったコミュニティバスの連絡協議会があってもいいんじゃないかなと個人的には考えております。それでは第2回の名張市地域公共交通会議を終了させていただきたいと思います。どうもありがとうございました。